

第2回 グリーンLPガスの生産技術開発に向けた研究会 議事要旨

- 日時：2020年12月17日(木) 10:00~12:00
- 場所：日本LPガス協会 第1会議室 (+ZOOMでのオンライン開催)
- 出席者：関根座長(早稲田大学教授)、橋爪委員(エネ庁)、坂西委員(産業技術総合研究所)他委員(9名)、オブザーバー他(8名)、事務局

議事概要

(1) 前回に続き、カーボンニュートラルなLPガスの生産技術開発に向けた最新の技術・研究開発動向等に関する情報の共有化を図るべく、以下の3名によるプレゼンテーションが行われた。

- ・「水素社会の実現に向けて」 岩谷産業(株) 津吉取締役
→ 豪州での褐炭由来水素サプライチェーンの実証化を始めとする低廉なCO₂フリー水素のサプライチェーン構想を始めとする同社の最近の取り組み状況の紹介等。
- ・「FT合成について」 千代田化工建設(株) 安井理事
→ FT合成技術を用いたサソール等の先駆事例紹介やFT合成油の特徴(パラフィン系)、高効率なLPG生産に有効な連鎖成長確立を得るための諸課題、等。
- ・「CO₂ - メタネーション技術の現状と課題」 国際石油開発帝石(株)
若山シニアコーディネーター
→ 天然ガス随伴のCO₂と水の電気分解で得られた水素を用いた長岡市で実証実験中のメタネーションプラントや、技術開発に向けた諸課題(触媒活管理など)のテーマ別進捗状況を始めとする紹介、等。

上記に加え、古河電工(株)による「家畜のふん尿から得られる温室効果ガスのLPガス化技術」に関するプレス発表内容の紹介が事務局より行われた。

(2) 今後の研究会活動等についての議論・検討(要約)

- ・ EUに加え、米新政権でも合成燃料が低炭素として認められるには、原料となるCO₂・水素ともにバイオマス由来などであることに限定され、CCU/CCUSでのCO₂等は「グリーン」と認めない動きがある。日本と利害を同じくする国々との連携等、政府による対応が必要。
- ・ CO₂がそのまま原料となるメタネーション技術と異なり、FT技術の場合はCO₂をさらに一酸化炭素に変換する必要があり、経済性を確保したうえでの技術開発を進めることが必要。
- ・ 次回も引き続きシーズ出しを行っていくこととし、大阪ガス、産総研等が講演を行う。

(3) 次回会合：1月22日(金)午前10時より